

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
エンプレス杯	2019/2/27	JpnII	川崎	2100m	ミドルペース	良	能力比較、コース適性

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	クロスウィンド	牝4	54	矢野	ヴァーミアン	ミスプロ系	アグネスデジタル	サンデー系	C	A	B	B	B	B	△1	
2	2	ミッシングリンク	牝5	55	戸崎	ヴィクトワールピサ	サンデー系	More Than Ready	ヘイロー系	B	B	B	C	B	B	×2	
3	3	キンショウユキヒメ	牝6	55	石橋脩	メイショウサムソン	ノーザン系	サンデーサイレンス	サンデー系	C	B	C	C	C	B	×3	
4	4	アルティマウェポン	牝6	55	真島	ヨハネスブルグ	ノーザン系	アグネスタキオン	サンデー系	C	A	B	C	B	B	△2	
	5	ブランシェクール	牝6	55	吉原	ダイワメジャー	サンデー系	クロフネ	ノーザン系	C	A	C	C	B	B	×1	
5	6	アッキー	牝6	55	柴田大	ゼンノロブロイ	サンデー系	プレミアムサンダー	アリダー系	D	C	D	D	D	D		
	7	プリンシアコメータ	牝6	56	岩田	スパイクユール	サンデー系	アジュディケーティング	ノーザン系	A	B	B	B	B	B	△3	
6	8	エミノマユアク	牝6	55	高松	エンパイアメーカー	ミスプロ系	サンデーサイレンス	サンデー系	D	C	D	D	D	D		
	9	ビスカリア	牝7	55	森	ヴァーミアン	ミスプロ系	Gilded Time	ダマスカス系	A	A	B	B	A	B	◎	
7	10	クレイジーアクセル	牝4	54	笹川	ロージズインメイ	ヘイロー系	サクラバクシンオー	ナスルーラ系	C	B	B	A	B	B	▲	
	11	グレートコマンダー	牝5	55	町田	パイロ	ナスルーラ系	ダンスインザダーク	サンデー系	D	C	D	D	D	D		
8	12	ラモントルドール	牝5	55	櫻井	ゴールドアリュール	サンデー系	ブライアンズタイム	ロベルト系	D	D	D	D	D	D		
	13	サルサディオネ	牝5	55	丸山	ゴールドアリュール	サンデー系	リンドシェーパー	ネイティヴダンサー系	B	B	B	A	B	B	○	

隊列図	見解	ラップタイム
クレイ サルサ プリン クロス ビスカ ミッシ ブラン キンシ アルテ アッキ グレー エミノ ラモン ミドルペース	<p>前回の牝馬限定のダートグレード・T C K女王盃は、1着△1ビスカリア（6番人気）、2着マルカンセンサー（9番人気）、3着▲ラビットラン（1番人気）、4着◎アルティマウェポン（8番人気）で決まり、3連複4万、3連単99万馬券の大波乱の決着に（大井1800mの牝馬限定のダートグレードは3連単配当が134万→6万→143万→99万と大波乱の決着が続いている）。2着にはダートグレード初出走、前走C 1・4着のマルカンセンサーが激走（ちなみに同馬は次走B 1で1番人気7着と敗退）。大井が反則気味の内伸び馬場だったのは確かだが、現在の牝馬限定のダートグレードのレベルの低さも好走できた要因のひとつだろう。今年のエンプレス杯は、出走馬13頭のうち5頭が前走T C K女王盃組。あの大波乱だったT C K女王盃の結果をどう捉えるかがまずは重要になりそうだ。それでは予想にいきましょう。</p> <p>本命はビスカリアがダートグレード連勝を決める。馬券的な買い時は明らかに前走T C K女王盃だったが、直線で独走状態になった走りを見ても、今回のメンバーでは能力が一枚抜けている感じ。（以下省略）</p>	

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	クロスウィンド	△1	前走東京シンデレラマイルが距離不足で参考外の一戦。2走前の川崎2100mで行われたロジータ記念ではクレイジーアクセルを下して勝利。当時の勝ち時計2分17秒1は、昨年のエンプレス杯なら掲示板級。		
2	2	ミッシングリンク	×2	実績上位も、長期休養明けはさすがに割り引きが必要。スタミナが問われる川崎2100m。休み明けの馬にとっては過酷な舞台だろう。		
3	3	キンショーユキヒメ	×3	2年前のJBCレディスクラシックでは12着に大敗。血統的にダート適性には疑問が残るが、あの一戦だけでは何とも言えないところ。事実上、初ダートに近いので念のため押さえておきたい。		
4	4	アルティマウェボン	△2	毎回、過小評価されているが、上りだけならブリータースゴールドカップ2位、レディスプレリュード1位、クイーン賞2位、TCK女王盃3位とすべて3位以内をマーク。ビスカリアが早めにマクってサルサディオーネ、クレイジーアクセルを潰す展開なら本馬にチャンスが巡ってきそう。		
	5	ブランシェクール	×1	コース替わりがマイナスも、2走前のクイーン賞では6着とそれなりに見せ場のある走り。たとえコース適性がなくてもほかの馬の走り次第では着順を相対的に上げてくる可能性がある。		
5	6	アッキー		JRA3勝馬でもっと走ってきてもいいが、現実的に転入後は東京シンデレラマイル10着、ウェルカム2019賞14着とニケタ着順続き。変わり身に乏しく、今回も苦戦必至だろう。		
	7	プリンシアコメータ	△3	前走クイーン賞の大敗がやや気になる。管理する矢野調教師も「馬に気持ちが入っていない」とコメントを出しており、牝馬なので走る気持ちを失くしてしまった可能性はある。スムーズな先行策を打てれば、変わっても良さそうだが、実績だけで売れるならやや疑ってみたい。		
6	8	エミノマユアク		昨年のエンプレス杯では勝ち馬プリンシアコメータから2.9秒差の8着と大敗。ダートグレードでは明らかに荷が重い。		
	9	ビスカリア	◎	馬券的な買い時は明らかに前走TCK女王盃だったが、直線で独走状態になった走りを見ても、今回のメンバーでは能力が一枚抜けている感じ。今回は左回りへのコース替わりになるが、JRAで最後に勝利を取めたのが左回りの新潟ダート1800m。コース替わりに関しては全く心配がいらないうらう。		
7	10	クレイジーアクセル	▲	前走TCK女王盃は適性外のコース、早めにビスカリアに交わされる厳しい展開ながら2着マルカンセンサーから0.5秒差の5着と健闘。今回は【0.2.2.0】と複勝率100%の川崎2000~2100m。得意条件に替われば、ダートグレードでも通用していいだろう。エンプレス杯で行き切れるのは大きな強み。		
	11	グレートコマンダー		B2で壁にぶつかっている現状。地元開催のダートグレードで参加するだけだろう。		
8	12	ラモントルドール		前走TCK女王盃では勝ち馬ビスカリアから5.4秒差の13着と最下位に敗退。ダートグレードでは明らかに荷が重い。		
	13	サルサディオーネ	○	今回、本馬はクレイジーアクセルにハネを譲る形になりそうだが、被されなければ、2番手でもOKのタイプ。実際、2走前のクイーン賞は2番手追走からの粘り込みだった。前走同舞台の川崎記念では大敗しているが、相手関係が大幅に弱化する今回は粘り込みがあってもいい。		